

平成27年 朝日旧友会新年総会



朝日旧友会年次総会

挨拶する中江会長

左から新会賓代表池辺さん、大野・徳江両副会長、渡辺社長、小倉東京代表

東京都中央区築地五丁目三十一
朝日新聞東京本社内
TEL 104-8011
三五四五〇一三三一
三五四三一三三八
FAX

朝日旧友会

平成二十七年度総会日程

〔日時〕 定時総会 五月二十日（木）
〔場所〕 朝日新聞記念会館（有楽町マリオン11階）
午後1時30分から映画「ふしぎな岬の物語」を
上映します。

新年総会 雨の中・なごやかに

喜寿・新会賓を温かく拍手で祝福

東京旧友会の平成二十七年度新年総会は、一月十五日（木）午後四時から有楽町のマリオン朝日ホールで開かれた。あいにく朝から雨で、午後には本降りとなり、出席希望者六十人が急遽参加を取りやめるなど初体験もあつたが、苦労を共にした仲間と半年ぶりに再会出来るとあって、午後一時半から上映の「利休にたずねよ」前には、懐かしい顔が次々姿を見せ、肩をたたき、手をにぎり会う光景もあつた。

総会には中江利忠会長、徳江景英、大野功雄両副会長はじめ旧友会員二百九十五人、本社側から渡辺雅隆新社長、小倉一彦東京代表ら役員、幹部四十人が出席、新体制での出発を誓いあい、盛り上がつた。

歴史の反省再生を目指す年

信頼回復の行動計画を

自由な社風受け継ぎ改革へ

池辺史生さん

渡辺社長

中江会長

総会は森精一郎事務局長の司会で開会、まず中江会長が「戦後七十年の再生目指して」「行動計画に旧友会

も協力」と題して会員に語りかけ、「戦後七十年のこととは、あらゆる意味で歴史

とつては、その成果が広く、真剣に問われることになる」

す年になる。特に昨年大きくな嵐に見舞われたわれらにとっては、その成果が広く、と提起、共感を呼んだ。次いで森司会者が今年の新会員六十四人の名前を読み上げ紹介、会員の温かい拍手で祝福された。

来賓として出席した渡辺社長は「一連の事態で失った信頼を一日も早く取り戻し、朝日を再生させるのが私の使命、先頭に立つて果たす覚悟」、信頼回復の行動計画として「公正な姿勢で事実と向き合う。多様な言論を尊重する。課題の解決策をともに探る」の三つを提言、役員、社員一丸となって実行すると述べた。

喜寿を代表した池辺史生さんは「先輩、同僚にすばらしい人が多く、その人たちと一緒にいるだけで毎日が楽しく、充実した生活が送れた。最初の勤務地では通信員ながら楽しい地方記者生活をした。朝日新聞で働けたことに感謝しています。自由な社風を受け継ぎつつ改革をお願いします」と語りかけ感動をさせつた。引き続いて親睦会、ホーリは語らいの場となり、夜八時までにぎわいが続いた。旧友の皆様健やかに。五月の総会でまた会いましょう。

社長あいさつ



「先頭に立って」と語る渡辺社長

ンバー」でつくる「パブリックエディター」です。編集部門から独立した立場で報道内容を点検し、必要な時は説明や改善を求めます。現在の紙面モニター制度を発展させ、お客様オフィスに集まる指摘や広告主の声、ASAを通じて寄せられるお客様の声を集約します。「読者や社会とともににつくる」ことを強く意識した、国内のメディアではなく、例のない試みです。

読み手に考える材料を提供することは、私たちの責務です。問題点の指摘にとどまらず、読者や社会と課題を共有し、とも

経営陣にあることは紛れもない事実です。編集権は取締役会にあります。それを踏まえたうえで、経営陣は今後、記事や論説の公正さを保つため、「編集の独立」をより一層、尊重します。私は昨年十一月五日、社長に就任した直後の会見で、「朝日新聞社を根底からくり変える」と申し上げました。社外からの批判を謙虚に受け止め、社員や役員の意識を変えなければ、信頼を取り戻すことはできないと考えたからです。

私たちは変わらなければなりません。しかしそれは、これまで

ていかなければなりません。特
定秘密保護法や集団的自衛権の
行使容認の議論も、政権が決心
したから終わりというわけではなく
りません。消費税の再増税を控
え、グローバル化とともに多くの
内空洞化や地方経済の衰退
超高齢社会への対応といった々
さまざまな課題も抱えています
いずれも、どうすれば解決でき
るのか、意見が分かれる大きさ
の課題です。朝日新聞社の役割は
増す一方です。先入観や思い込
みを排して事実に謙虚に向き合
い、真実に迫る。権力に頼らず
独自取材で隠れた事実を掘り起
こ。
（著者）

特許の事業では、四月をめどに「東京五輪パラリンピック」でスポーツ戦略センター（仮称）を発足させます。今年は全国高校野球選手権大会が始まってから百年の節目にあたり、三年後の二〇一八年には百回大会を迎えます。新設するセンターは中核に、朝日のブランド価値をさらに高めています。

幸い、朝日新聞社の安定的な収益を支える不動産事業は順調です。中之島フェスティバルタワーの成功を追い風に、フェスティバルタワー・ウエストを昨年着工しました。完成は十七年春の予定です。良縁を起す、

朝日の再生を使命に先頭に立つ覚悟
新しい調査報道でくらしに役立つ新聞を

に解決策を探るメディアへと進化させます。朝日新聞の強みである調査報道を一段と強化しま

で朝日新聞社が積み上げてきものすべてを捨て去るといううえでは決してありません。私たち

来の調査報道だけでなく、公表された資料から問題点を分析する「データジャーナリズム」など、デジタル時代に対応した新

道機関の原点に立ち戻るだけのことなのです。「ジャーナリズムの扱い手として立ち続けること」。明日新聞社の存在意義は

「いざる者にあらざる」――
実の発掘で終わるのではなく、
解決策を探る報道を心がけ、「く
らしに、社会に役立つ新聞」に

今年は、戦後七十年の節目の年です。二〇二〇年には東京五輪も開かれます。日本は各国と

編集の独立を一層尊重

ことが求められています。そのためには、かつての過ちも含めて歴史の実相をしつかりと伝

新規事業開拓、先端技術研究

新規事業開拓 **先端技術研究室**
新たな成長に向けた基盤づくりも急ぎます。新規事業の開拓には経営資源を思い切って投します。先端技術を研究する実験工房「メディアラボ」は、投資ファンドやベンチャー企業への投資などを次々と進めています。今年は米国のシリコンバレーに駐在を置き、海外でのプロジェクトも構想しています。社内の若い力と外部の力を結びつけて、次世代のメディア企業をめざす拠点として活動をさらに活性化させます。

ビルの土地は一八八八年、東京に進出した年に本社を構えた、東京での創業の地です。今年は、ひたすら前に進んでいくだけです。厳しい風にさらされた昨年を忘れず、改革を大胆に進める好機ととらえ、再生への道を切り開いていきます。O B のみなさまにはぜひ、これまで以上に厳しく、温かい目でそして少しだけわがままを言わせていただければ、静かに私たちは見守つていただきたいと思います。

喜寿記念講演

通信員として千葉へ
楽しかった地方記者生活

新会賓代表 池辺 史生さん



語りかける池辺史生さん

先輩・同僚すばらしい人ばかり
一緒にいるだけで毎日が充実

新聞社で働く興奮、泊まり当番で
千葉で四年間、地方記者生活をしました。楽しい思い出ばかりです。うれしかったのは、先輩、あるいは同僚の記者たちがすばらしい人たちばかりだった

を書き取られました。もの数分もしないうちに「死」したという第一報がもたらされました。すぐに支局長を起として県下の通信局や販売店に連絡まくったのですが、このときめで「ああ、おれは新聞社でしているんだ」と興奮しまして「フルシチヨフ更迭」の報もが泊まりの日に本社からの专线で受けています。昭和三十一年十月の半ば、東京オリンピックのさなかのことだったこと今回、調べてみて分かりました。泊まり当番の日は事件についていましたが、自分の持ち場比較的平穀でした。「抜いた

長の横木謙雄さんから、将来はどういう部署で働きたいのかと尋ねられました。事件取材は苦手、政治家は好きになれないし、英語はできないし……などとすぐず言つた後、できうれば学芸部に……と申しましたら、横木さんいわく、「学芸部というのは、お前、学者みたいな人ばかりがいるところだぞ」。結局、出版社に送り込まれました。出版校閥部というところで一年修行をしてから週刊朝日の編集部に配属されました。初日から九州に出張で、生まれて初めて飛行機に乗りました。週刊誌の取材も新聞の取材も基本は同じ

週刊朝日の編集部員にとつては、自らの取材執筆のほかに、筆者と付き合う仕事があります。筆者として、連載小説、対談エッセイ、漫画など、外部の執筆者と付き合う仕事があります。サトウサンペイさん始め、それの方々と接するのはまことに刺激的でした。

私は、大阪の出版編集部、朝日ジャーナル編集部、出版販売一部などに籍を置いたこともあります。が、トータルで二十七年間

一九八〇年、本社が有楽町から築地に移った機会に、築地市場にまつわる記事を連載するよ

昨年は朝日新聞社にとつて大好きな試験の年でした。そういう時期なので、この機会に、自分はどうな記者生活を送ったのか振り返ってみました。

私は、国民学校一年生のころからとまでは申しませんが、幼いころから、いずれは新聞記者になるつもりでいました。でも朝日新聞社の入社試験には落ちました。それで、せめて卒論くらいはちゃんとしたもの書きたいと思い、留年することになりました。とりあえず食費を稼ぐために、朝は豆腐屋の小僧、昼間は大工の手伝い、夜は家庭教師というアルバイト生活に入りました。

ました。三ヶ月くらい経つたころ、高校時代の友人から朝日新聞の通信員にならないかと声をかけられました。通信員？ その当時、サンフランシスコには池添通信員、ロサンゼルスには室中通信員という方がいて、盛んに署名記事を書いていました。「ははあ、あれかな」と思いました。香気なものでした。香気なものです。

私はそんな話を持ってきた友人の父親が朝日新聞の記者（広西正巳さん）だったのですが、たまたま私の書いたガリ版刷りの四国旅行記を目にして「こいつ、いま何をしているんだ。朝日新聞記者を志望している？」

「抜かれた」というのが好きではなかった私にとってはありがたかった。中にはちょっと変わった人もいましたけれど……、ともかくも、そういう優れた人たちと一緒に働いているというところで毎日が充実していました。当時は市原通信員という身分でしたが、支局で泊まり当番もしました。その何回目かの泊まりの日、昭和三十八年（一九六三）十一月二十三日の未明、専用線の呼び出しで叩き起され、張り出し用の原稿として「ジョン・F・ケネディ大統領がダラスで狙撃された」という第一報をしていたとき、四人目の支局会議で、當時、社会部長だった伊藤牧夫さんが、「抜いて抜いて抜きまくれ。これこそが報道の自由を守る唯一の道だ」と教導弁護法くそくらえといふことを聞いて、確かに振るわれるのを聞いた。秘密にそうだ、と唸りました。でも、私の場合、いわゆる特ダネとは無縁の記者生活でした。

じなのですが、当初は「なんだこの原稿は新聞の記事を写しなただけじゃないか」などと言われて、何度も書き直しを命じられました。新聞ではいかに簡潔にわかりやすく書くかに心を配りましたが、週刊誌では読者の好奇心に応えるようディテールを大事にすることを学びました。

週刊誌記者の多彩な仕事

内、場外で取材していましたが、どうせなら产地まで行ってやれということで、例えば、カキの季節になつたら三陸や広島の養殖場を訪ねて、帰りはカキを積んだトラックの助手席に乗せてもらつて築地まで帰つてきたりしました。遠洋マグロ漁船にも乗り込みたかったのですが、これは、さすがに編集長にダメだと言われました。その連載では自分でどんなふうに料理して食べたかということも書きました。締めサバの作り方について書いたときは、侃侃諤謔、読者から

じなのですが、当初は「なんだ
この原稿は新聞の記事を写した
だけじゃないか」などと言われ
て、何度も書き直しを命じられ
ました。新聞ではいかに簡潔に
わかりやすく書くかに心を配り
ましたが、週刊誌では読者の好
奇心に応えるようディテールを
大事にすることを学びました。

内、場外で取材していましたが、どうせなら产地まで行ってやれということで、例えば、カキの季節になつたら三陸や広島の養殖場を訪ねて、帰りはカキを積んだトラックの助手席に乗せてもらつて築地まで帰つてしましました。遠洋マグロ漁船には乗り込みたかったのですが、これは、さすがに編集長にダメだ

と言われました。その連載では、自分でどんなふうに料理して食べたかということも書きました。締めサバの作り方について書いたときは、侃侃諤謔で、読者から

平成27年新年総会出席者

喜寿出席者

粟田伊三雄	（あ）	（い）	（う）	（か）	（お）	（う）	（い）
白田	（き）	（き）	（木下）	（神谷）	（大島）	（昭二）	池辺
正順	（木下）	（桑折）	（秀男）	（佐々木大祐）	（佐々木大祐）	（光男）	史生
（桑折）	（甚野）	（隆正）	（守男）	（鶴谷）	（高田）	（浩一）	（昭二）
（甚野）	（守男）	（高田）	（鶴谷）	（富田）	（た）	（じ）	（か）
（守男）	（順也）	（浩一）	（高田）	（松井）	（ま）	（な）	（み）
（順也）	（生田目由夫）	（高田）	（松井）	（水木）	（や）	（む）	（よ）
泰夫	（生田目由夫）	（松井）	（水木）	（村野）	（山川）	（吉川）	（若目田倫子）
龟本	（生田目由夫）	（水木）	（村野）	（行志）	（山村）	（宏）	（渡辺）
	（生田目由夫）	（村野）	（村松）	（坦）	（山村）	（吉川）	（若目田倫子）
		（村松）	（良健）	（祥之）			

(か)	(お)	(え)	(う)	(い)
金子 晃二	奥谷 勝浦	粕谷 進	岡田 大野	荒田 飯田
金井 加藤	岡村 卓志	岡村 充孝	岡田 大石	安藤 池嶋
金子 晃二	岡田 稲永	岡田 宇野	大野 悠二	飯田 正美
金成 英雄	岡田 岩松	大塚 碓井	大竹口 高子	安藤 博
金井 加藤	岡田 勝巳	大塚 功雄	大野 大野	飯沼 守
金子 晃二	岡田 博隆	大倉 功雄	岡田 大竹口	和泉田 澄
金井 加藤	上田 宰正	内山 晃	出穂 高子	伊藤 誠
金子 晃二	上田 久行	内山 真	岡田 大塚	伊藤 三郎
金井 加藤	猪爪 純一	岡田 和巳	岡田 大塚	伊藤 千尋
金子 晃二	大坪 正徳	岡田 康世	岡田 大塚	伊藤 千尋
金井 加藤	大倉 文雄	岡部 康世	岡田 大塚	稻永 金仁
金子 晃二	岡田 大塚	岡田 信久	岡田 大塚	稻永 金仁
金井 加藤	岡田 久明	小田川 興	岡田 大塚	栗田 房穂
金子 晃二	岡田 光男	片岡 香月	岡田 大塚	安藤 保雄
金井 加藤	岡田 浩之	香月 浩之	岡田 大塚	和夫

(し)	志賀	芝	柴田	柴田	芝	志賀	(な)
（せ）	善當	菅野	清志	須田	數度	志村	（と）
（そ）	相馬晃一	治昌	徹	田中右太生	竹内	勇	（て）
（た）	高垣清太郎	高木敏行	高見弘保	高山修一	實昭	仙名	（ち）
（す）	高橋徳藏	高木敏行	竹田純	高山智	高垣徳藏	鈴木益民	（な）
(じ)	高橋徳江	高木敏行	竹田俊一	滝下修	義弘	住川治人	志賀浩
（せ）	田沢健次郎	詫摩俊一	竹村文雄	武田透	竹市	志村眞樹	（せ）
（ぞ）	田辺功	谷口富喜男	寺田千綿	玉川昭夫	寺田鶴岡	柴田勝	（と）
（た）	田中健一	久光	谷啓之	谷啓之	豊田中江	柴田昭一	（な）
（す）	堤政明	都丸司	雅夫	達雄	景英	眞樹實	（な）
(じ)	谷口富喜男	内藤賴誼	昭雄	利忠	隆生	志村嘉一郎	（な）
（せ）	谷久光	都丸司	雅夫	中島昌子	中澤富次	島戸一臣	（と）
（ぞ）	竹村文雄	都丸司	昭雄	中島中北	中島善範	柴田鉄治	（ち）
（た）	竹田俊一	都丸司	利忠	中島清成	中島善範	柴田浩	（な）
（す）	竹田純	都丸司	眞樹	中島宏八	中島中北	柴田昭二	（な）
(じ)	志村嘉一郎	都丸司	浩	中島嘉一郎	中島中北	柴田昭二	（な）

(左)	山野辺富夫	山本久二男
(右)	山崎 英明	横田 稲光
吉田 弘文	吉澤 忠一	吉澤 忠一
和井田祐三 渡部 二六	渡辺 晋 渡辺 恒雄	渡辺 宏 渡辺 幸男
渡邊 宏	渡辺 恒雄	幸男
(出席者三百九十五名)		

△ありがとうございました。



羽原清雅さん、水木初彦さん



旧友会新年総会に初出席された渡辺新社長を囲んで



(左)山下靖典さん、川戸弘次さん、笹井輝雄さん



中江会長と元運輸部の仲間たち



秋山顧問を囲んで



宮坂秀一さん、伊波新之助さん



芝實さん、広瀬道貞さん



(左)藤島啓之助さん、朝野きらかさん、林信晴さん



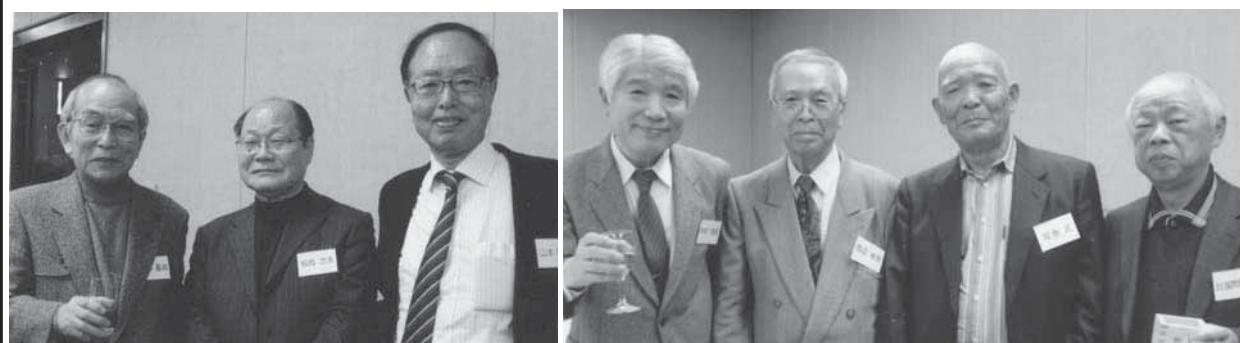
かつて千葉支局で活躍した頼もしい面々



(左)草鹿恵さん、浜田隆さん、飯田直也会長、前原寛成さん (右)近藤龍夫さん、中村英さん、見市元さん、住川治人さん



(左)中江会長、渡邊宏さん、渡辺新社長、小田川興さん、伊藤千尋さん (右)山村行志さん、桑折勇一さん、和井田祐三さん



(左)川原基尚さん、鮫島忠夫さん、山本祥之さん (右)中村雅俊さん、渡辺幸男さん、坂巻武さん、比留間悦雄さん



安中宏明さん、木下秀男さん

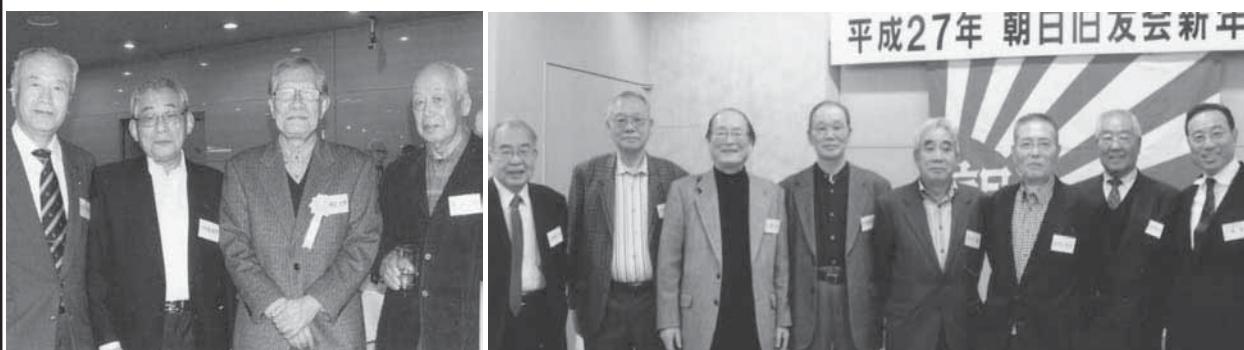
大竹口高子さん、田中健一さん

(左)牧野詔正さん、菊池武さん、福田喜大さん



元活版部の仲間たち

(左)武田透さん、鶴谷守男さん、渡部二六さん、斎藤幹夫さん、稻木泰生さん



(左)荒木忠直さん、小林基美男さん、神谷光男さん、植木栄さん

(左)志村嘉一郎さん、竹村文雄さん、小林繁さん、村岡美佐男さん、金井進さん、岩松宰正さん、長久保雅生さん、小栗昌宏さん



(左)詫摩俊一さん、阿部征夫さん、星野富栄さん

(左)佐藤清治さん、宮崎千勝さん、小松季司さん

(左)石井哲次郎さん、猪爪純一さん、三宅勝喜さん



窪田喜三さん、茂貫正記さん

(左)浅井泰範さん、柴田鉄治さん、児玉浩憲さん

(左)田沢健次郎さん、金成英雄さん、静井貞夫さん



内山眞さん、森治郎さん (左)平野新介さん、村上吉男さん、伊藤三郎さん (左)安藤保雄さん、田辺功さん、五味秀雄さん



仙名紀さん 栗田伊三雄さん、池辺史生さん (左)小畠監査役、藤田修三さん、中澤昌子さん、家本労務部長、小西取締役



(左)松本秀男さん、佐々木大祐さん、松井安夫さん (左)二本柳典彦さん、片岡久明さん、沢野正明さん、喜久村繁さん、森田恭生さん、長谷川大介さん



小林清吉さん、宗田文隆さん (左)藤巻稔さん、藤巻隆さん、平賀義男さん、中島清成さん 富田順也さん、猿見田肇雄さん